

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4790300018
法人名	有限会社 介護サービスセンター前原
事業所名	グループホーム喜楽
所在地	〒904-2214 沖縄県うるま市安慶名362番地の11 (電話)098-974-1037
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(H20年9月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 1 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	10.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 12,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	又は1日1,100円			

(4) 利用者の概要(9月 12 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 85.6 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仲宗根クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ①グループホーム喜楽は、地元 roots に根ざし、緑に囲まれた住宅街に立地している。
- ②設立者の理念が現場のスタッフへきちんと理解されているので、統一されたケアがなされている(基本に添ったケアができています。)
- ③利用者本位の視点で介護に携わり、情報が共有できるよう工夫され、それが現場でしっかり生かされている。
- ④日々の介護を通して、利用者はゆったり元気に過ごされている。
- ⑤地元のスタッフが多く、地元とのつながりが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成20年1月開設のため、今回は初回の外部評価となる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・介護支援専門員で自己評価を行なったが、課題を確認し、すぐにでも解決できることは、全職員で取り組むことができた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 設立1年目で1回開催されている。委員の中からの要望もあって6ヶ月に1回の開催を予定し、毎月の便りにて利用者の情報を行政・委員に伝えている。また地域の行事等のサポート役として、民生委員の協力が得られているので、今後期待できる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入所時の訪問・体験利用・宿泊を通して、本人・家族の希望が把握され、入所してからは、電話や面会等で聞くようにしている。施設からの報告は、便りを毎月発行し郵送している。苦情・要望等があれば即対応し、改善結果を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設時グループホーム・認知症への理解を得るため地域への啓発活動を行なったので、地元の敬老会・小学生登校時の交通安全の手伝い・大綱引きへの参加ができています。施設の行事への参加呼びかけにも積極的に参加してくれる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	宅老所時代の法人の理念を一部修正し、なじみの関係・質の高いサービス・その人らしくを加え、よりわかりやすく具体的にまとめている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや会議で、「なじみの関係とは」等と具体的に例を挙げながら利用者一人一人と向き合えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員等にグループホームの説明・認知症の勉強会を開催したことで、地域の敬老会への参加・小学生の交通安全確保の旗あげ・大綱引き等の、地域行事への参加ができています。また施設行事への呼びかけにも参加してくれた。	○	短い期間で、地域との交流ができていますので、豊富な人脈を活かした今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について、経験の浅いスタッフへ理解を求めることは難しかったが、今後取り組みたい項目の中ですぐ対応できる意見箱の設置・食事のメニュー作りなどは職員全員で確認し合い、改善できた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設1年目で1回開催。2回目は11月に開催を予定している。また毎月1回の事業所便りを、運営委員や行政へ郵送している。	○	専門的意見を言ってくれる方が委員にいないということで、オブザーバー的な役割の働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	こまめに情報交換を行なっている。また便りを郵送することで、状況を把握してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶり・健康状態等は、面会時に伝えたり、必要時は電話で伝えたりしている。金銭管理に関しては、介護支援専門員が行い報告を行なっている。新職員、退職職員の報告は便りを利用している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はまだないので、外出・行事への参加の呼びかけを行なっているが、平日での開催なので家族の参加はなかなか得られない。また意見箱へは要望等は入っていないが、口答での要望へは、即対応している。各部屋に意見用紙があり、気軽に書いて頂けるよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	長期職員の退職時は、理由等をきちんと説明し利用者の引継ぎを2週間前から行い不安を与えないような配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は本人の意思を確認し、希望者及び全職員を積極的に研修へ参加させている。研修費は、事業所で負担している。ミーティング等で報告してもらい職員同士の共有をはかっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会の役員を担ったり、近隣のグループホームとの情報交換を行なうことで、よい面にきづきプラス効果が出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用で日中だけ利用させたりと、本人に合わせた対応をすることで、早く安心して生活できるようにしている。また環境に慣れるまでは、寝るまで家族に対応してもらったり、時には、宿泊してもらう等の工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との関係づくりは、その人のペースにできるだけ合わせ家事や趣味等、一緒に行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員ができるだけ本人の意向を確認し介護計画を作成している。必要時は、1泊から2泊の体験実施してもらって入所してもらうような工夫をしている。一人一人の担当職員が状況を把握し、ミーティングで話し合い、全員で意向を共有し希望の実現に向けて努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が初回の面接を行い介護計画を作成。その後は担当スタッフが本人の意向を確認し、内容等の変更を介護支援専門員に伝える。その後スタッフ間で再確認し、必要時は、家族や本人も交えて担当者会議を開催している。確認は毎日30分程度の話し合いを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回を基本としているが、必要時にはそのつど見直しを行なっている。変化や悩み、現状をその都度提示し、その後の結果についても検討を重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が、外出・外泊できるよう家族に協力してもらい、職員も積極的に支援している。利用者の状態が安定するまで、家族が泊れるような働きかけを行なって、実際に泊り対応してくれる家族もいる。認知症の勉強会を開催している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4名の利用者は2週間に1回往診にきてもらい健康状態の把握をもらっている。その他の利用者に関しては、基本的に家族対応で受診し、必要時は情報提供書を作成し持たせることもある。	○	現状から将来を鑑み、事業所としては、全員往診して頂き、すべての利用者が安心して生活できるような支援をしていきたいと考えているが、一部の人は制度上の壁で往診を入れることができない現状がある。今後行政への働きかけを期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に同意をもらっている。まだ開所してまもないこともあり、現在まだ看取り医療を行なったことがない。今後は、勉強会を積極的に行なっていきたいと考えている。	○	現体制を活用し、夜間の不安解消等、職員教育に力を入れ、具体的な取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○JT(現場研修)を通して接遇の徹底を図っている。個人のプライバシーに関することを掲載する時は、家族の同意のもとで行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、「家に帰りたい」「外出したい」等要望にできるだけ応えていける体制づくりを心がけている。職員間の連携を含め、利用者からは全ての面でその人らしさの奥深さを感じさせて貰っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と食事のメニューを考えたり、買い物や食事の下ごしらえを行ったり、出来る方には食器の後片付けをしてもらっている。テラスで野菜を栽培し、一緒に収穫したものをおやつや料理に使用し、楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回を基本としているが、特に決めてなく利用者が自分の好きな日や好きな時間に入浴することができる。浴室の手すりも吟味され、更衣等もプライバシーが配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できるだけ利用者の生活暦を日々の記録に残し、把握すると共に発見に心がけている。例えば昔交通安全活動を行っていた利用者へは、小学校の理解を得ながら旗ふりをスタッフも一緒に行ったり、裁縫の技術を活かしたり、魚を一匹おろしたり、得意なことをやって貰っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中は、近所を散歩したり食事の買出しに行ったりと、外出の頻度は多い。また年に2回の遠足を企画し、殆どの利用者は参加できている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないが、利用者が外に出たいと希望する時は、自由に外にできることはでき、スタッフが常に見守りを行なっている。21時以降玄関に鍵をかけて戸締りはしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1回は消防訓練をおこなったが、年明けには夜間を想定しての自主訓練を予定している。	○	夜間の火災訓練等、今後は、地域住民を巻き込んだ訓練ができるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在のところ水分制限のある方がいないので、具体的な把握はしていないが、テーブルに急須を置き、いつでも自由に飲めるようにしている。又摂取量の確認は、いつしよに食事をする事で把握できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、壁や床は木材を使用してぬくもりがある。飾りつけに関しては、家庭的な自然の雰囲気大切にしている。沖縄の自然や行事の写真がさりげなく飾られている。食事面では季節の野菜を取り入れるようにし、季節を意識している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた家具の持ち込みをしたり、表札も一人一人の特色がある。テラスを設置することで利用者が一人になれる空間づくりがされている。また色合いが統一されているので、すごく開放的である。		